

「玉窓妙金法尼の石祠」をさがして

『諏訪形誌』277ページには次のような記載があります（一部編集）。

曹洞宗玉祐山金窓寺は寺伝によれば、この寺は武田家滅亡の14年後の慶長元年（1596）に、武田家にゆかりのある女性、玉窓妙金法尼が一門の菩薩を弔うため、小牧山系諏訪形地籍字西山の地に小庵を構えたのが始まりとされています。

また、『諏訪形誌web版』の「曹洞宗玉祐山金窓寺」の項には以下のように記載されていて、石祠の写真も掲載されています。

金窓寺の寺伝によれば、この寺は武田家滅亡（天正10（1582）年）の後、武田家にゆかりのある女性、玉窓妙金法尼が一門の菩提を供養するため、小牧山系諏訪形地籍字西山の地（通称「権現山」。現在の御所地籍に近い場所で、送電線の鉄塔があるあたり）に小庵を構えたのが始まりとされています。この場所は「三本松」から西（原峠の方向）に少し行ったあたりで、その場所には現在、高さ約60cmの石祠（霊廟型卒塔婆）があります。石祠の左側面には次のような文字が線刻されています。

金窓寺六世祖門曇庭大和尚
享保十七壬子九月吉日

線刻からこの石祠は、開祖である玉窓妙金法尼が当初居を構えた場所を後世に伝えるために、金窓寺第6世の祖門曇庭和尚が残したものと考えられます。

その後、金窓寺は里へ下り、慶長元（1596）年4月、武田家一門の菩提供養のため、東御市の興善寺7世通山全達師を拜請して「権現山金窓寺」を開山しました。前述の女性は自らも出家し「玉窓妙金法尼」と名乗りました。「金窓寺」の名称も「玉窓妙金法尼」の「窓」と「金」の文字から採られたものではないかとも推測できます。



しかしその後、近くに道が開かれたり、山林が荒れたりして、この石祠がどこにあったのかわからなくなってしまいました。諏訪形誌活用委員会でも委員が現地に出向いて、何回か捜索を行ったのですが見つかりませんでした。

7月23日、諏訪形誌活用委員会主催のウォーキングイベント開催にあたって、ちょうどこのイベントで「石祠」があると思われる場所の近くを通ることから、資料に以下のようなコラムを載せました。

【コラム 玉窓妙金法尼の石祠】

今回、「全コースを歩く」ではボーイスカウトキャンプ場付近から林道を西に向かうこととなります。ところで、この林道添いのどこかに「玉窓妙金法尼の石祠」があるはずですが。

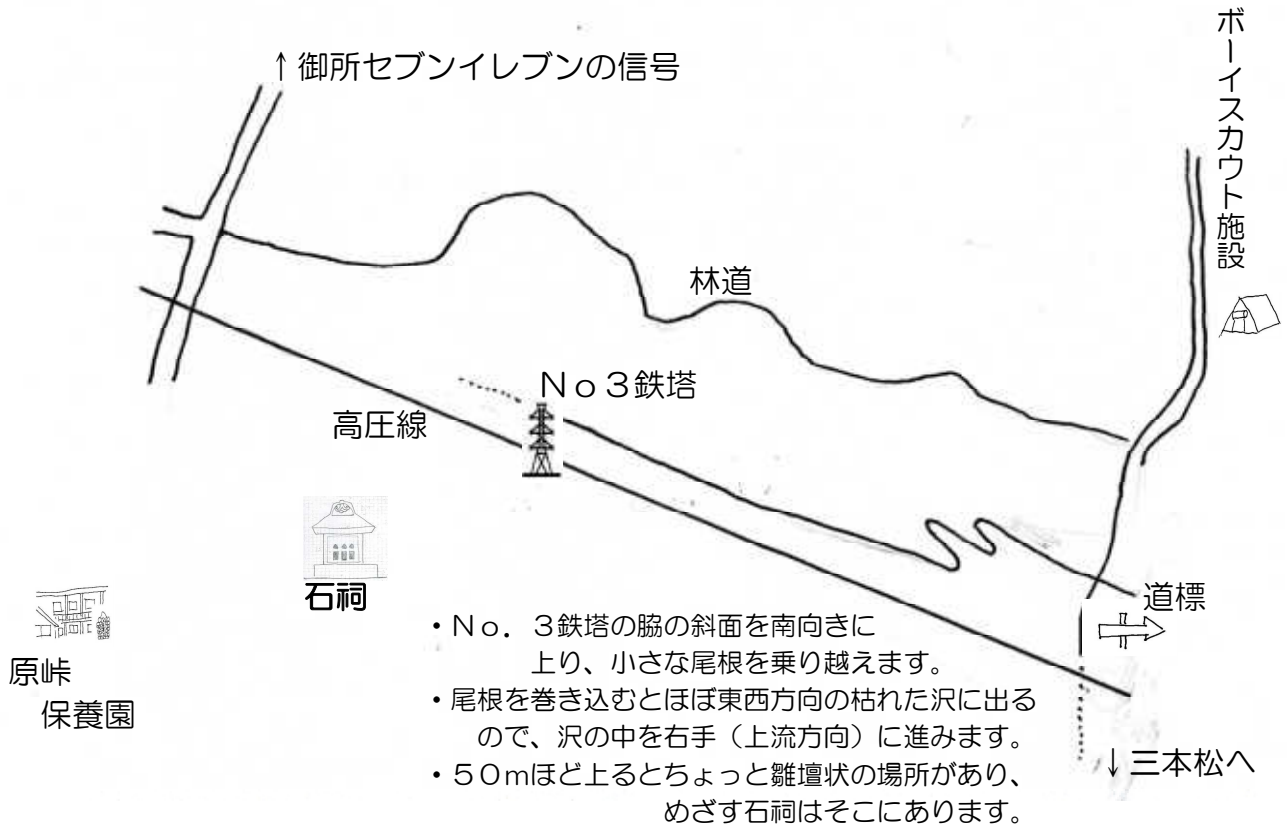
玉窓妙金法尼がこのあたりに武田家の菩提を弔うための石祠を建てたのが現在の金窓寺の始まりと伝えられています。詳しくは『諏訪形誌』277ページや『諏訪形誌web版』の「曹洞宗玉祐山金窓寺」の項をご参照ください。右の写真を見ていただくと、石祠があることが確認できます。

ところが現在、この石祠のある場所が確認できなくなってしまいました。道が変わってしまったのか、それとも藪になってしまったせいなのか…。昨年、諏訪形誌活用委員が数回、この祠を探しにこのあたりの林の中に入ったのですが、結局見つけることができませんでした。

右の写真は昭和51（1976）年 北沢伴康氏撮影



この記事を読んでくださった地域の方から「その石祠なら知っている」という連絡をいただきました。さっそく7月26日、知らせてくださった方に案内していただいて、この祠を訪ねてみました。



原峠
保養園

通称「殺人坂」を上ってボーイスカウトの施設を過ぎ、西に向かう林道の入口も通り過ぎるとその先に、中部電力の高圧線管理用の道があります。この道を通って、No.3の鉄塔をめざします。実はこのNo.3の鉄塔付近は、以前にも探しに入った場所です。「祠はこの鉄塔の近くにある」というかなり確かな情報を得ていたため、周辺は詳しくさがしたはずだったのですが…。しかし、問題はこれから先でした。



鉄塔までは管理用の道がつけられていて、それなりにたどり着くことができます。けれど、案内してくださった方はここからさらに「けもの道」と思われる踏み跡をたどって上に進みます。左の写真では鉄塔の左下敷の中に入っていく感じです。私たちが必死でついていきます。



少しばかり上ると小さな枝尾根を乗り越えて、小さな沢に出ます。原峠方面から通称「三本松」に通じる尾根と諏訪形から原峠に通じる林道との間にある小さな尾根との間にあたる沢筋です。近くには凝灰角礫岩と思われる岩塔もありました。

小尾根を乗り越えて水がない沢に入り、50mほど上の方に進むと小さく開けた場所があって、その中に石祠があるのが見えました。

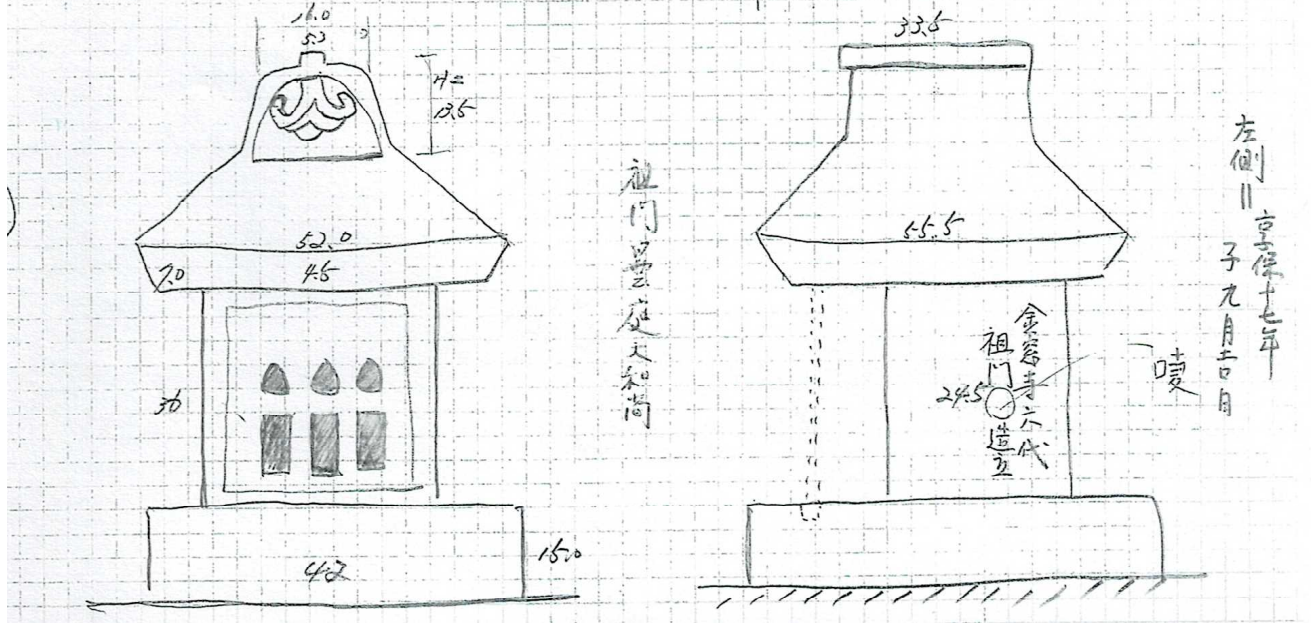


石祠は南向き、やや西側に正面を向けて建っていました。周囲は倒木などでだいぶ荒れた感じになっていましたが、石祠そのものは無事でした。その特徴的な姿から、これが私たちが探していたものであることはすぐにわかりました。また、周囲はやや平らに開けていて、小庵くらいならあっても不思議はないくらいの広さがあるように思われました。

側面に刻まれている文字はだいぶ傷んでいて読み取りにくかったのですが、「金窓寺六世祖門曇庭大和尚 享保十七壬子九月吉日」と刻まれているはずの文字の一部を読み取ることができました。

57. 10. 24

上田市諏訪町字西山の山林中



北沢伴康氏の野帳（1976年）より